Management Club Report

Jun.2017/Vol.174

Monthly Opinion ≪付加価値は生かされているか≫

ここ何回かのレポートは、テーマをその都度変えながらも上質な歯科医療の確立と提供のあり方について様々に考えて参りました。極論過ぎる面があったかもしれませんが、もっと独創的な秘策が幾らでも存在すると思います。そしてそれらは、挑戦的な歯科医師や歯科医療スタッフたちによって実行に移され、更に改良が加えられて行くことに期待感を抱いています。

しかし、上質な医療サービスを提供したことが歯科医院の経済を豊かにし、上質化に向けて行った投資や、人々の努力は正当に報われているのでしょうか。そして豊かになった経済力を以って更に上質化を実現していく、そのような拡大再生産が実現されているのでしょうか。

勿論、行った投資や努力がすべて経済的な成果となって戻ってくることが約束されるわけではありませんが、「上質化」ということに一般的な支持が集まり需要が高まるならば、品質向上に見合う形で価格は上昇し、利益をもたらすことになります。

ところが、一般的には適用されるこの経済原理が医療経済においては成り立たないのです。何故なら自由主義経済下にあっても健康保険制度に支配される医療経済は統制経済であり、「需給バランスが均衡するところで価格の決定がなされる」という仕組みにはなっていないからです。つまり、付加価値を高めるべく全スタッフが一所懸命に払った努力は、その成果としての価値の高まりに見合う治療費単価の上昇にはまったく反映されずに終わっているのです。

ただ、上質化を歓迎する顧客は当然に増大しますので、上質化の販売数量、即ち受診者数の増大は実現し、その結果に比例して診療報酬総額も増大しますので、一見歯科医院としては豊かになったかのように映るのですが、現実は稼働時間が長くなったり忙しさが増したりしているだけなのです。受診者数を増やすことばかりに熱心になっていると、徒労感だけが積み上がっていく歯科医院が出来上がってしまう、ある種のジレンマが現行の医療制度には存在するのです。

1 上質化への各種障害を乗り越えよう

健康保険制度が持つ弊害からの脱却

15 年来の会員で大変親しく、またお世話になっている歯科医院のＴ院長からレポートの感想文と共に近況を知らせるメールが入りました。

「保険制度の弊害が医療の進展に大きな障害となっています」